



本にする目的をあらためて確認してからグループに分かれて意見交換。「伝える・つなぐ」ために何が必要か話し合います。自分たちの経験や視点からみた意見を盛り込むことが決まりました。最後は電子黒板で共有しながら、意見を共有していました。



「舞い方はもちろんだけど感想や思いも書きたい」「自分たちが感じた苦労や工夫したことも入りたい」。グループに分かれ活発な意見が飛び交います。子どもたちは、「つなぐ」をテーマに下級生や池田小学校に赴任してくる先生に向けて一冊の本を残すことにしました。資料で得た情報ではなく、自分たちが教わり経験した神舞や、感じた思いをつなぎたいと年内の完成を目指しています。

記録ではなく、思いを伝える「一冊」。「本を作ることが目的になつてはいけません。池田旗山の神舞を記録として残すのではなく、これまで存続の危機に直面しながらも次代に継ぎたいと継承してきた先人の思いを、自分たちの声に乗せて書いてほしい」と担任の濱崎健先生は力を込め子どもたちと向き合います。今の時代であれば写真や映像など記録して残す方法はいくらでもあるでしょう。しかし単なる記録ではいつか途絶えてしまいます。笛や太鼓は耳で覚え、口上や舞もすべて口伝。独特のリズムも稽古を受けながら継がれてきました。継承の難しさを感じ、自分たちなりの答えを見つめます。

「舞い方はもちろんだけど感想や思いも書きたい」「自分たちが感じた苦労や工夫したことも入りたい」。グループに分かれ活発な意見が飛び交います。子どもたちは、「つなぐ」をテーマに下級生や池田小学校に赴任してくる先生に向けて一冊の本を残すことにしました。資料で得た情報ではなく、自分たちが教わり経験した神舞や、感じた思いをつなぎたいと年内の完成を目指しています。

11月29日、池田小の5・6年生教室では池田旗山の神舞継承に向けて話し合い活動が行われていました。今年、初めて取り組んだ地域の伝統継承活動。旗山神社をはじめ大楠や神舞の歴史を調べ、地域の人や保存会への取材を通して自分たちの住む池田地区を深く掘り下げて学びました。特に神舞に関しては歴史の背景にある継承してきた人たちの思いに触れ、自分たちが本当に残すべきものはなにか気づかされます。

11月29日、池田小の5・6年生教室では池田旗山の神舞継承に向けて話し合い活動が行われていました。今年、初めて取り組んだ地域の伝統継承活動。旗山神社をはじめ大楠や神舞の歴史を調べ、地域の人や保存会への取材を通して自分たちの住む池田地区を深く掘り下げて学びました。特に神舞に関しては歴史の背景にある継承してきた人たちの思いに触れ、自分たちが本当に残すべきものはなにか気づかされます。

未来へ「つなぐ」一步

先人の思いに触れ、教わった地域の歴史を一冊の本に——。
継承に向けた取り組みは次のステージへ。



池田旗山の神舞に欠かせない「ツノブキ」を制作した6人。竹は保存会からいただき、持ち手部分は同色、先はそれぞれ自由にデザインした。池田の歴史も調べて発表した。

後列左から▶森田悠斗くん、安水紗弓さん、那須玲奈さん、前列左から▶小平健太郎くん、松尾光希くん、押領司ほたるさん

5年 前迫 蓮太郎くん

体育館に準備したイスが足りないくらい朝早くから地域の方々が来てくれた。緊張したけど「神舞で元気をもらえた」と声をかけてもらい嬉しかった。来年は6年生。下級生に伝えながら、地域に残る伝統の神舞に取り組んでいきたい。

6年 近藤 希和くん

口上や動きを覚え、練習の成果を披露できたことが嬉しい。今後は下級生や池田旗山の神舞を知らない人たちに知ってもらうため1冊の本にまとめる。舞の動作や意味も大事だけど、これまで受け継いできた人たちや自分たちの思いを込めたい。

6年 笹原 昂くん

6年間の発表会で神舞を舞えたことが一番心に残っている。本番は雰囲気全然ちがった。お客さんもこれまでで一番多かった。教えてくれた神舞保存会の方々には本当に感謝しかない。目標にしていた、保存会の思いをしっかりと舞で伝えることができたと思う。

6年 上園 虎太郎くん

自分たちの番になり失敗しないかすごく緊張した。一番苦労したのは口上。途中で班が2つに分かれ、新しい方の口上を覚えることになった。覚えられたのは3日前。でも本番では大きな声ではっきり言えた。神舞を池田小の伝統としてつないでいきたい。

6年 川原 希菜さん

百点満点でした！友達との息も合い、大きくはっきりとした動きで神舞を舞うことができた。練習では息が合わず不安もあったけど、本番は人が変わったように一番いい神舞ができた。日々の練習の積み重ねと感じている。緊張したけど素晴らしい発表会になった。